

景況は持ち直しの動きが見られるが、慎重な見方が続く

鈴鹿商工会議所
中小企業相談所

(総括)

鈴鹿商工会議所では、鈴鹿地域の企業の業況と今後の見通し、問題点等を把握するため、会員企業を対象に毎年1月と7月に景気動向調査を行っている。このたび平成29年下期(7月～12月期)の調査結果がまとまった。

全体の景気動向としては、前回調査(平成29年1月～6月期)と比較すると、景気の現状と今後の見通しが改善。景況は持ち直しの動きが見られるものの、先行きは不透明な状況が続いている結果となった。

全体DI値において、前期調査時に比べ、現状DI値は16.4ポイント、見通しDI値は12.7ポイントの改善となった。業種別のDI値を見ると、飲食業を除く全ての業種で改善が見られた。

政府の推進している景気浮揚策の効果が地方の中小企業・小規模事業者に少しずつ波及しつつあり、前回調査時から引き続き、DI値の改善が見られ、中小企業の景況感は動きの鈍さがあるものの総じて緩やかな回復が続いているものと思われる。ただし、人手不足や競争激化、消費者の低価格志向、原材料の価格上昇分の価格転嫁など先行きへの懸念材料があり、慎重な見方があるため、今後の見通しは横ばいとなるものと推察される。

(対象 1,100社 回答企業 356社、回答率 32.4%)

DI値(ディフュージョン・インデックス)

DIとは、景気動向を示す指標で、調査時点における企業家の経済行動(強気や弱気など)を知るためのものであり、景気動向を客観的に判断する資料として幅広く使用されているもので、特に言及がない限り、「増加」「好転」したとする企業から、「減少」「悪化」したとする企業割合を差引いた値である。

●現状の景気について (図-1・3 参照)

「良い」「やや良い」は27.3%(前回19.0%:前年同期17.5%)、「やや悪い」「悪い」は29.8%(前回37.9%:前年同期44.1%)となった。

景気動向を示すDI値は、 $\Delta 2.5$ (前回 $\Delta 18.9$:前年同期 $\Delta 26.6$)と前回より16.4ポイント、前年同期より24.1ポイント改善している。

業種別では、製造業DI値2.5(前回 $\Delta 4.3$:前年同期 $\Delta 20.5$)、卸売業DI値 $\Delta 27.3$ (前回 $\Delta 64.3$:前年同期 $\Delta 63.7$)、小売業DI値 $\Delta 40.0$ (前回 $\Delta 52.4$:前年同期 $\Delta 60.4$)、建設業DI値13.1(前回 $\Delta 10.5$:前年同期 $\Delta 11.4$)、飲食業DI値 $\Delta 31.3$ (前年 $\Delta 10.7$:前年同期 $\Delta 26.7$)、サービス業DI値6.0(前回 $\Delta 23.4$:前年同期 $\Delta 35.4$)となった。

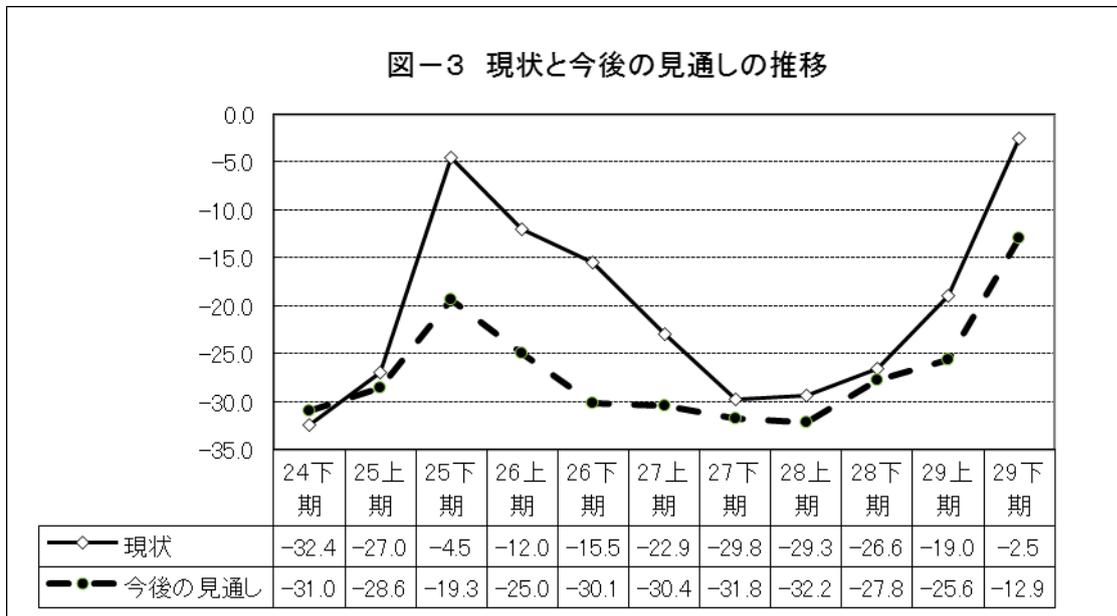
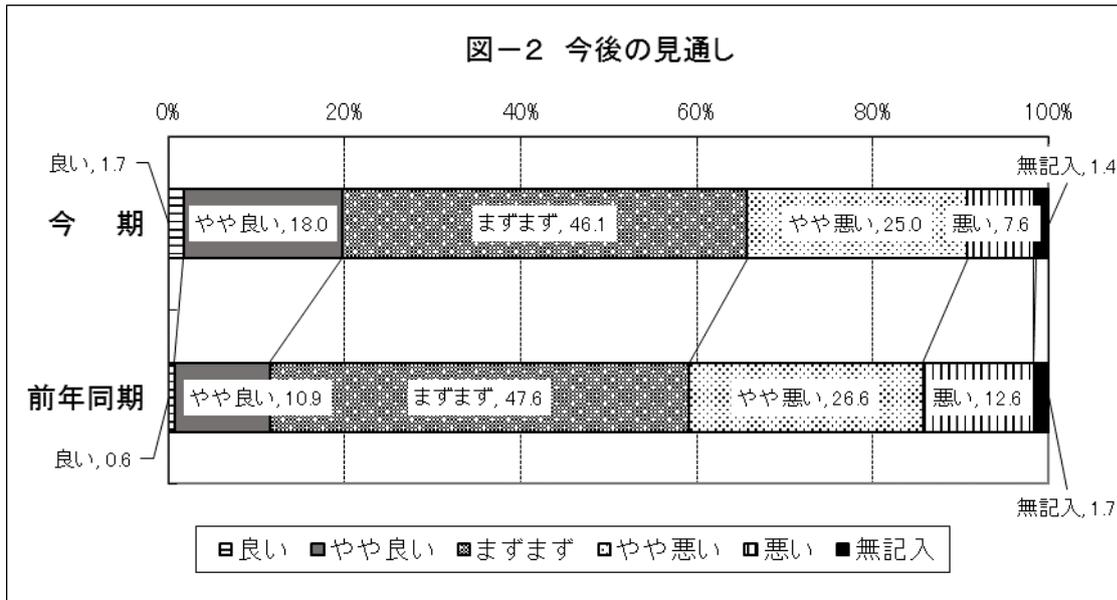
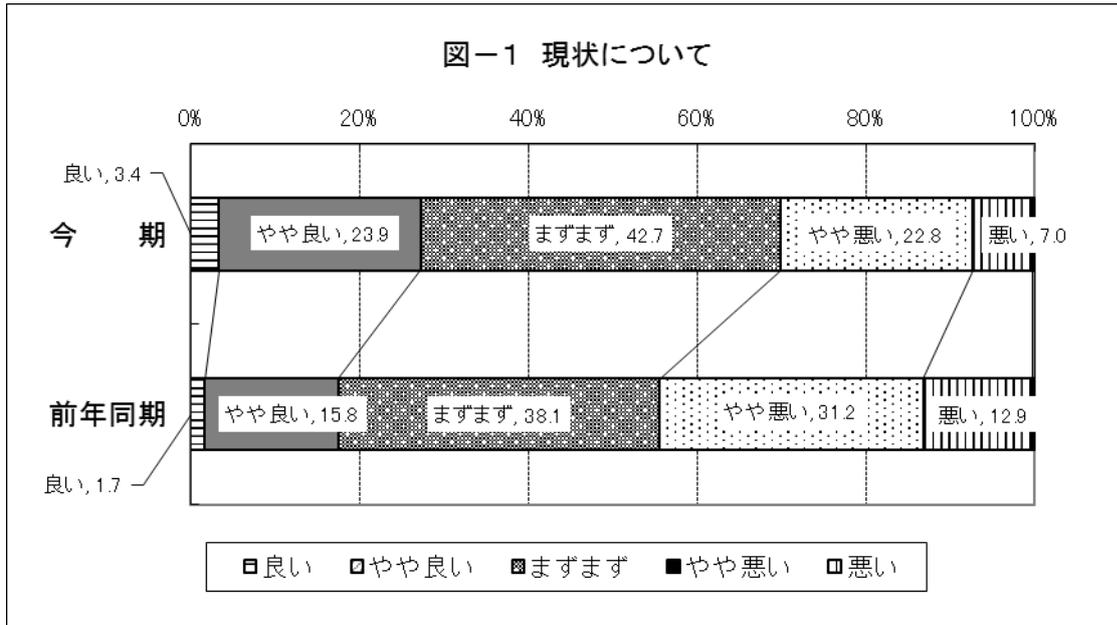
●今後の景気見通しについて (図-2・3 参照)

「良い」「やや良い」は、19.7%(前回13.6%:前年同期11.5%)、「やや悪い」「悪い」は32.6%(前回39.2%:前年同期39.2%)となった。

DI値は、 $\Delta 12.9$ (前回 $\Delta 25.6$:前年同期 $\Delta 27.7$)と前回より12.7ポイント、前年同期より14.8ポイント改善している。

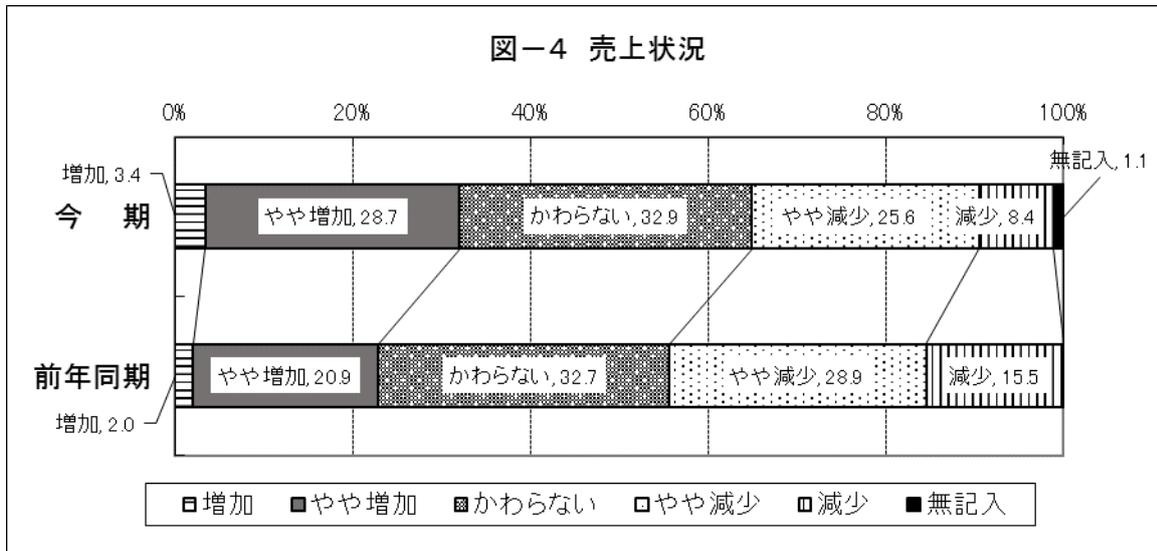
業種別では、製造業DI値 $\Delta 10.7$ (前回 $\Delta 9.4$:前年同期 $\Delta 19.3$)、卸売業DI値 $\Delta 27.3$ (前回 $\Delta 64.3$:前年同期 $\Delta 36.4$)、小売業DI値 $\Delta 30.0$ (前回 $\Delta 45.9$:前年同期

△56.6)、建設業 DI 値△4.7 (前回△26.9: 前年同期△24.7)、飲食業 DI 値△43.8 (前回△17.8: 前年同期△40.0)、サービス業 DI 値△12.0 (前回△26.6: 前年同期△20.8) となった。



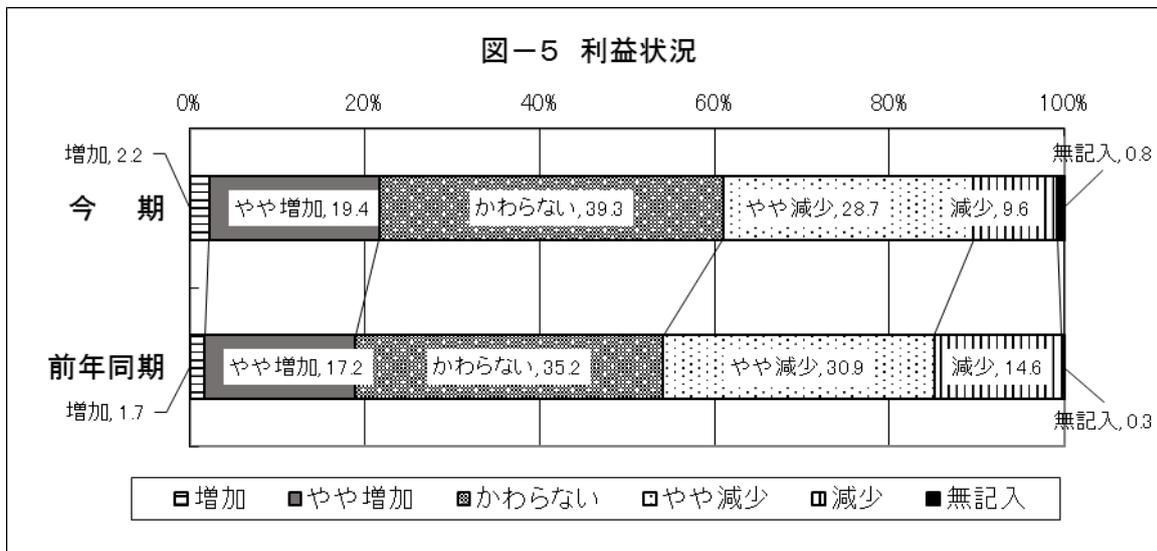
●売上状況について（図－4 参照）

「増加」「やや増加」は 32.1%（前回 21.5%：前年同期 22.9%）、「やや減少」「減少」は 34.0%（前回 44.1%：前年同期 44.4%）となった。DI 値は△1.9（前回△22.6：前年同期△21.5）と前回より 20.7 ポイント、前年同期より 19.6 ポイント改善となった。



●利益状況について（図－5 参照）

「増加」「やや増加」は 21.6%（前回 17.7%：前年同期 18.9%）、「やや減少」「減少」は 38.3%（前回 44.1%：前年同期 45.5%）となった。DI 値は△16.7（前回△26.4：前年同期△26.6）と前回より 9.7 ポイント、前年同期より 9.9 ポイント改善している。



経営上の問題点(上位3位)

(%)

		第1位	第2位	第3位
業 種 別	製造業	人手不足 (39.8)	人材育成 (34.9)	売上・受注の停滞減少 (30.1)
	卸売業	売上・受注の停滞減少 (54.5)	競争の激化 (45.5)	人材育成 (36.4)
	小売業	売上・受注の停滞減少 (60.0)	競争の激化 (44.0)	人手不足 設備店舗の狭小老朽化 (22.0)
	建設業	人手不足 (51.9)	人材育成 (38.8)	売上・受注の停滞減少 (31.0)
	飲食業	人手不足 (56.3)	売上・受注の停滞減少 (43.8)	原材料高及び不足 (37.5)
	サービス業	売上・受注の停滞減少 人手不足 (36.0)	競争激化 設備店舗の狭小老朽化 (26.0)	人材育成 (24.0)
	交通運輸業	人手不足 (85.7)	人材育成 (28.6)	売上・受注の停滞減少 原材料高及び不足、法的規制等 (14.3)
	その他	人手不足 (55.6)	売上・受注の停滞減少 設備店舗の狭小老朽化、人材育成等 (22.2)	製品・商品単価の下落、借入難、 原材料高及び不足 競争激化等 (11.1)
総合	人手不足 (42.8)	売上・受注の停滞減少 (36.3)	人材育成 (30.7)	
前年同期	売上・受注の停滞減少 (45.8)	人手不足 (32.1)	競争激化 (23.8)	

地場産業—自動車関連

●現状の業況と今後の業況見通しについて

a) 現状の業況について

「良い」「やや良い」は 29.4% (前回 31.5% : 前年同期 14.3%)、「やや悪い」「悪い」は 38.2% (前回 34.3% : 前年同期 42.9%) となった。DI 値は $\Delta 8.8$ (前回 $\Delta 2.8$: 前年同期 $\Delta 28.6$) と前回より 6.0 ポイント悪化、前年同期より 19.8 ポイント改善している。

b) 今後の業況見通しについて

「良い」「やや良い」は 23.5% (前回 22.9% : 前年同期 17.9%)、「やや悪い」「悪い」は 32.3% (前回 28.6% : 前年同期 35.7%) となった。DI 値は $\Delta 8.8$ (前回 $\Delta 5.7$: 前年同期 $\Delta 17.8$) と前回より 3.1 ポイント悪化、前年同期より 9.0 ポイント改善している。

●売上状況と今後の見通しについて

a) 売上状況について

「増加」「やや増加」は 41.2% (前回 34.3% : 前年同期 32.1%)、「やや減少」「減少」は 41.2% (前回 37.1% : 前年同期 35.8%) となった。DI 値は 0.0 (前回 $\Delta 2.8$: 前年同期 $\Delta 3.7$) と前回より 2.8 ポイント、前年同期より 3.7 ポイント改善している。

b) 売上の見通しについて

「増加」「やや増加」は 32.4% (前回 22.9% : 前年同期 25.0%)、「やや減少」「減少」は 32.3% (前回 22.9% : 前年同期 32.2%) となった。DI 値は $\Delta 0.1$ (前回 0.0 : 前年同期 $\Delta 7.2$) と前回と比べ、ほぼ横ばい、前年同期より 7.1 ポイント改善となった。

●利益状況について

「増加」「やや増加」は 29.4% (前回 28.6% : 前年同期 14.3%)、「やや減少」「減少」は 50.0% (前回 34.3% : 前年同期 50.0%) となった。DI 値は $\Delta 20.6$ (前回 $\Delta 5.7$: 前年同期 $\Delta 35.7$) と前回より 14.9 ポイント悪化、前年同期より 15.1 ポイント改善している。

■お問い合わせ

鈴鹿商工会議所中小企業相談所

TEL : 0 5 9 - 3 8 2 - 3 2 2 2

FAX : 0 5 9 - 3 8 3 - 7 6 6 7